

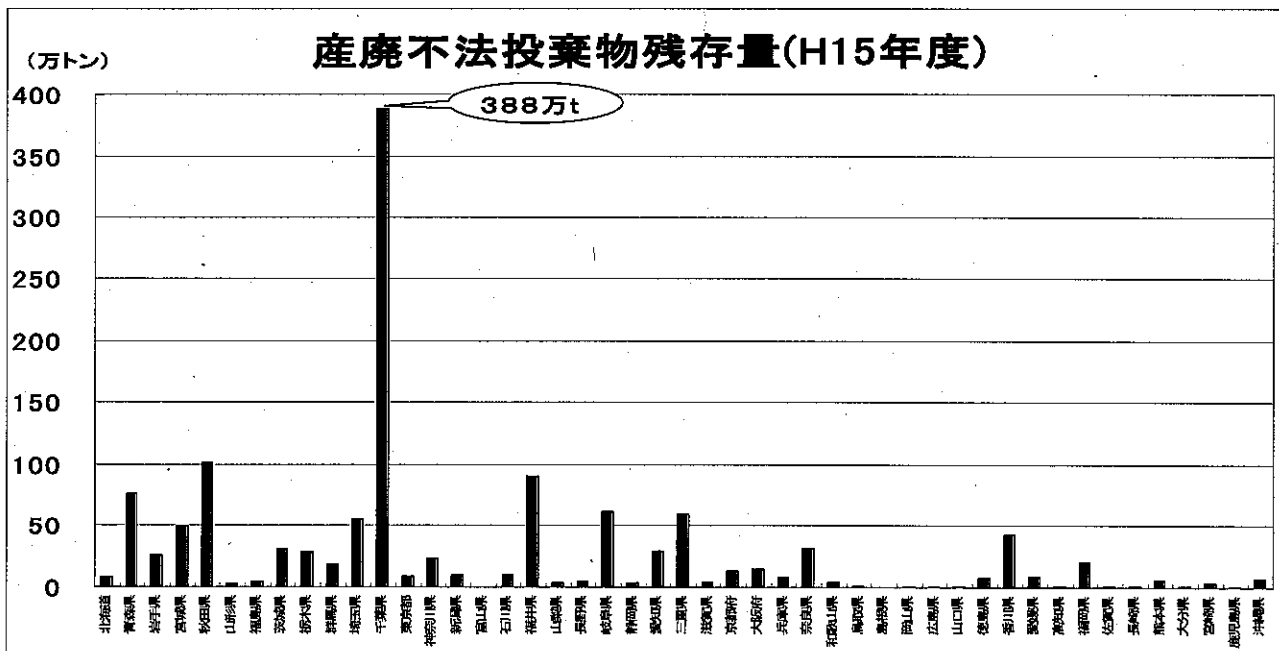
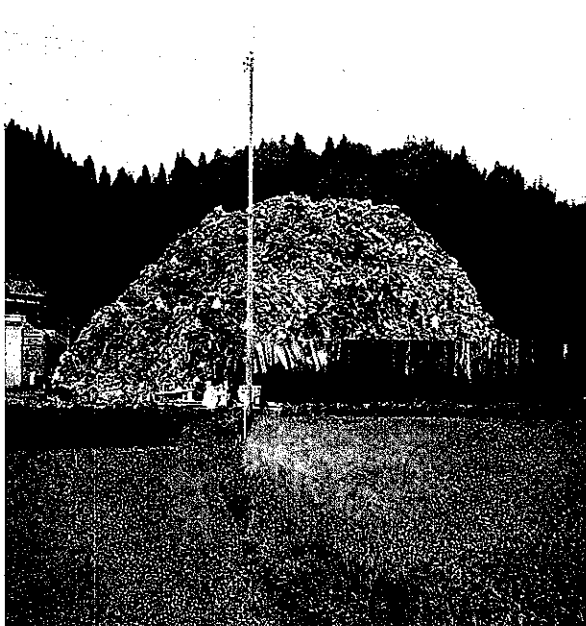
県土利用の問題点の発生要因と解決に向けた課題について

# 1. 環境の問題

## 《ごみ・産廃・残土の不法投棄の問題》

### 【具体的な問題点】

- ◆ 地権者等への権利侵害
- ◆ 環境(土壌・河川・地下水の汚染・悪臭)の悪化
- ◆ 崩落・流出・火災等の危険
- ◆ 県内のあちこちに投棄されることによる景観の悪化
- ◆ 不法投棄されたものの撤去費用等の問題



## 【問題の発生要因】

- ◆ 産業活動に伴い廃棄物の量が増大。減量化・リサイクルが十分されていない。
- ◆ 処理に費用がかかるため、違法に投棄する事業者等の存在。
- ◆ 排出者は、廃棄物を運搬業者へ委託し、最終処分まで確認できない。
- ◆ 処分場所が不足している。
- ◆ 千葉県に投棄されやすい条件がある。
  - ・ 排出地域から近く、交通条件も良く運搬が容易
  - ・ 人目に目立ちにくく、投棄しやすい谷津や谷地が存在
  - ・ 荒廃した森林や農地の存在

## 《問題解決に向けた課題》

- ◆ 廃棄物・残土の減量化・リサイクルの推進
- ◆ 排出者・処理事業者の廃棄物・残土に対する意識改革、責任の明確化
- ◆ 不法投棄者に対する取り締まり・罰則の強化
- ◆ 地域住民と行政・警察等が連携した監視体制の強化

## 《問題解決に向けた取り組み事例》

- ◆ 県内の県民センターに「地域環境保全課」を設置し、通称「グリーンキャブ」による不法投棄の監視体制を強化（千葉県）
- ◆ 県警本部に「環境犯罪課」を新設し、不法投棄などの取締りを強化（千葉県）
- ◆ 「廃棄物の適正処理対策地区連絡会議」の開催による県・市町村・警察との連携強化（千葉県・市町村）
- ◆ 地域住民による不法投棄監視員の設置による取締り強化(市町村)
- ◆ 「なくそう不法投棄・守ろうふるさと」をスローガンに、産廃・残土県民ダイヤル（24時間緊急ダイヤル）の設置など、県民による総監視体制づくり(千葉県)



## 《産業廃棄物処理場の立地の問題》

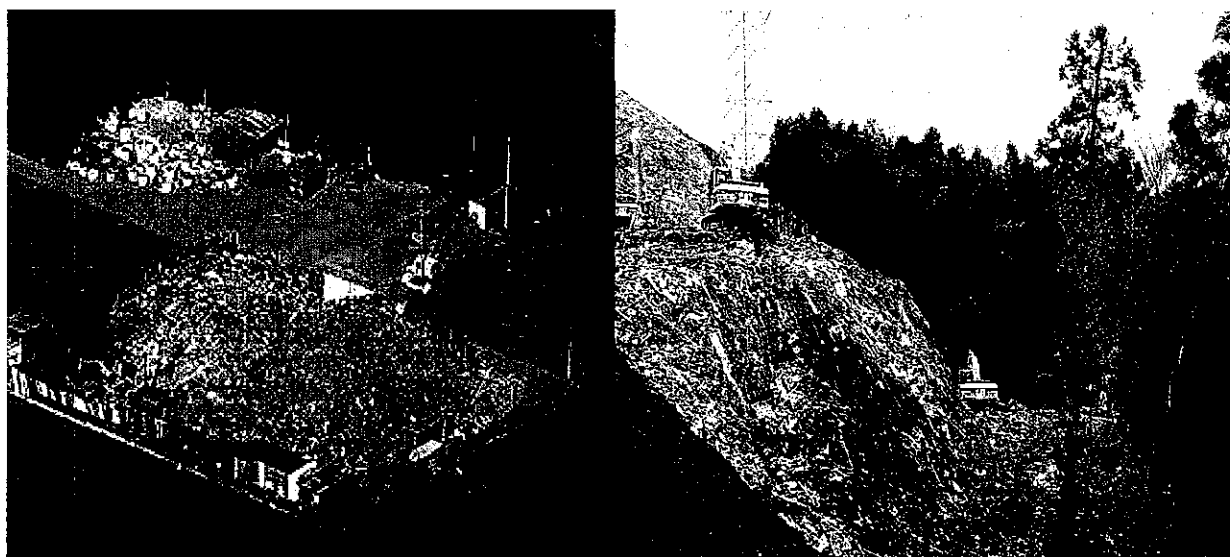
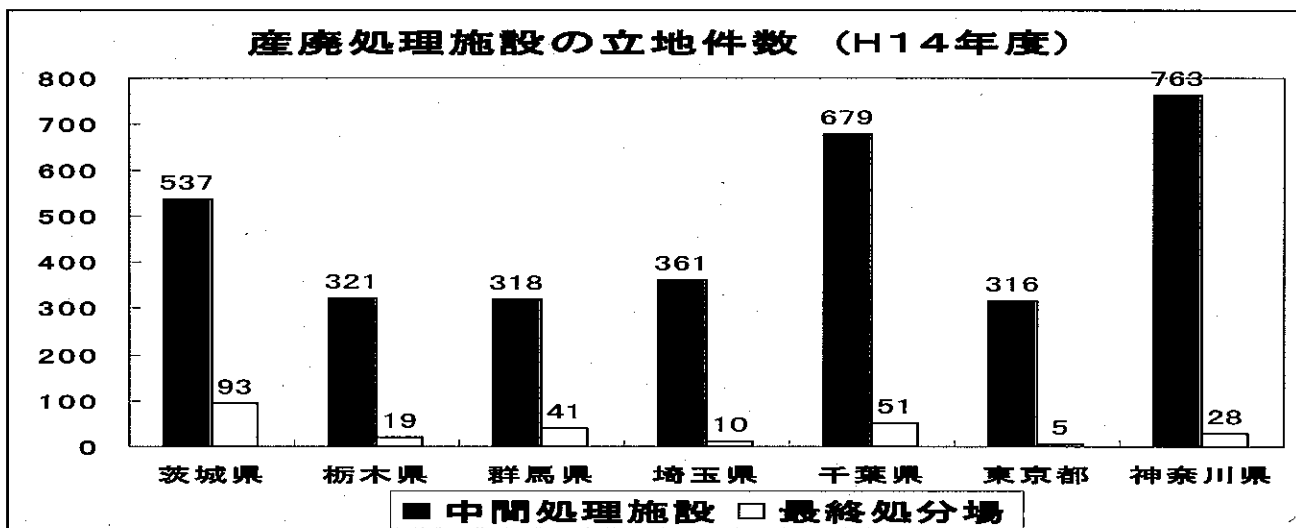
### 【具体的な問題点】

#### (中間処理施設)

- ◆ 環境（騒音、煙・ダイオキシン・粉塵、悪臭、交通事故）や景観の悪化
- ◆ 河川・地下水・土壌の汚染の懸念
- ◆ 人体に有害な物質の混入・不適正な量の搬入の懸念
- ◆ 崩落・流出・火災等の懸念
- ◆ 人家の隣接地・農地の中などへの立地

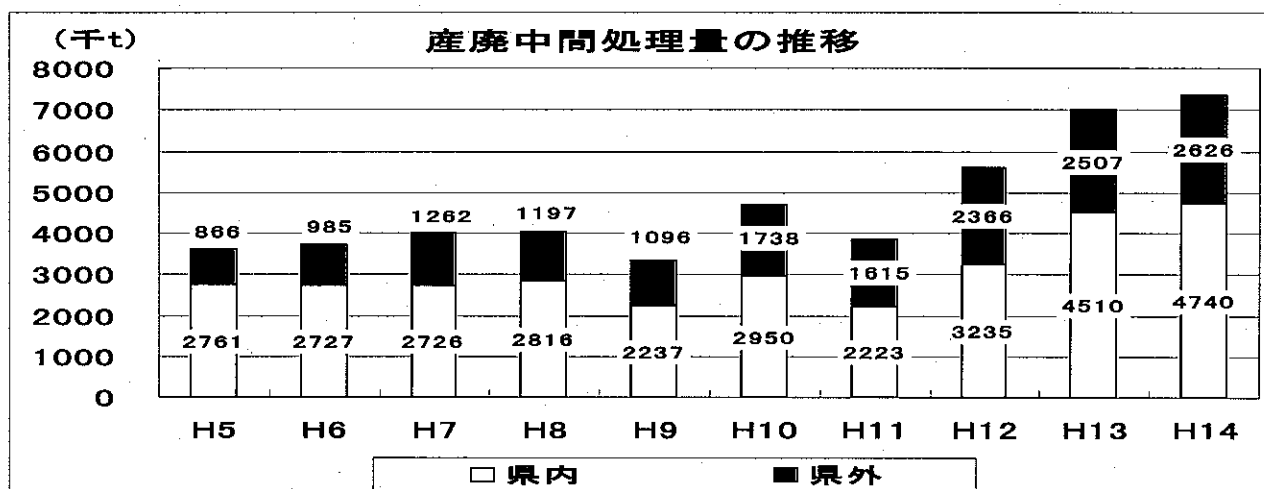
#### (最終処分場)

- ◆ 自然環境（緑の減少・生態系の破壊）や景観の悪化
- ◆ 河川・地下水・土壌の汚染の懸念
- ◆ 有害な物質の混入・不適正な量の搬入の懸念
- ◆ 最終処分場の不足



## 【問題の発生要因】

- ◆ 廃棄物の減量化・リサイクルが十分されておらず処理量が増大。
- ◆ 管理できなくなった森林や農地、市街地内の未利用地等の存在。
- ◆ 有害な物質の混入・許可量を超えた不法な処理の例があり、住民に不安感がある。
- ◆ 一定の環境・設置の基準を満たせば立地が可能。



## 《問題解決に向けた課題》

- ◆ 廃棄物の減量化・リサイクルの推進
- ◆ 排出事業者・産廃処理業者・地権者の意識改革と責任の明確化
- ◆ 不適正な処理に対する監視・取締り・罰則の強化
- ◆ 処理施設に対する立地の規制と誘導

## 《問題解決に向けた取り組み事例》 (参考資料1)

### ◆ エコタウン事業の推進 (千葉県・市町村)

工業化の進んでいる西・中央地域を「エコタウンエリア」として位置付け、地域特性を活かしたリサイクル施設を整備 「メタン発酵ガス化、木材・廃プラスチック、塩ビ系廃棄物、高純度メタル・プラスチックリサイクル施設」(千葉市)、「エコセメント製造施設」(市原市「塩ビ系廃棄物、高純度メタル・プラスチック、貝殻リサイクル施設」(富津市)など

### ◆ 産業廃棄物税の導入(三重県)

産廃の発生抑制・再生・減量化等の対策費に当たるため、産廃の搬入量に応じトン当たり1000円を課税。

### ◆ ネガティブ・ポジティブマップの作成による施設の立地規制(ドイツ)

ドイツでは、地下水をはじめ環境調査を行い、ネガティブ(立地回避)・ポジティブ(立地適地)マップを作成し、水源地域には、処理施設の立地を制限。

## 《残土処理場の立地の問題》

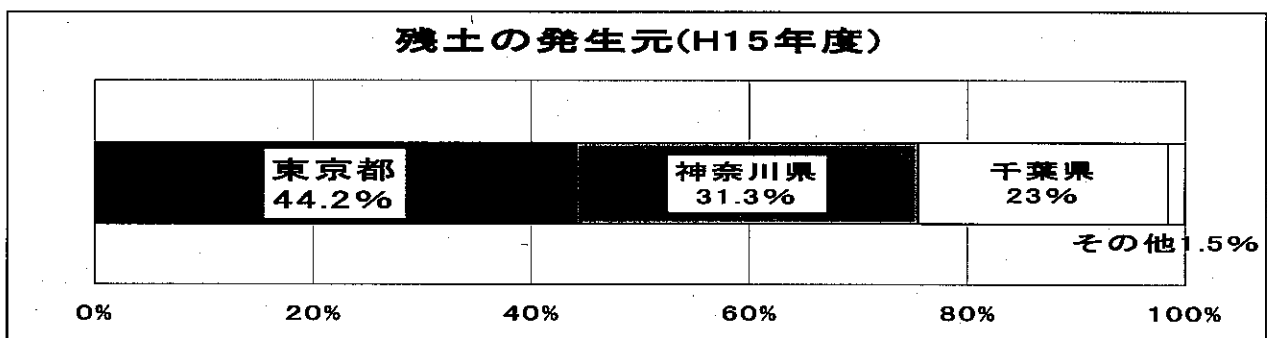
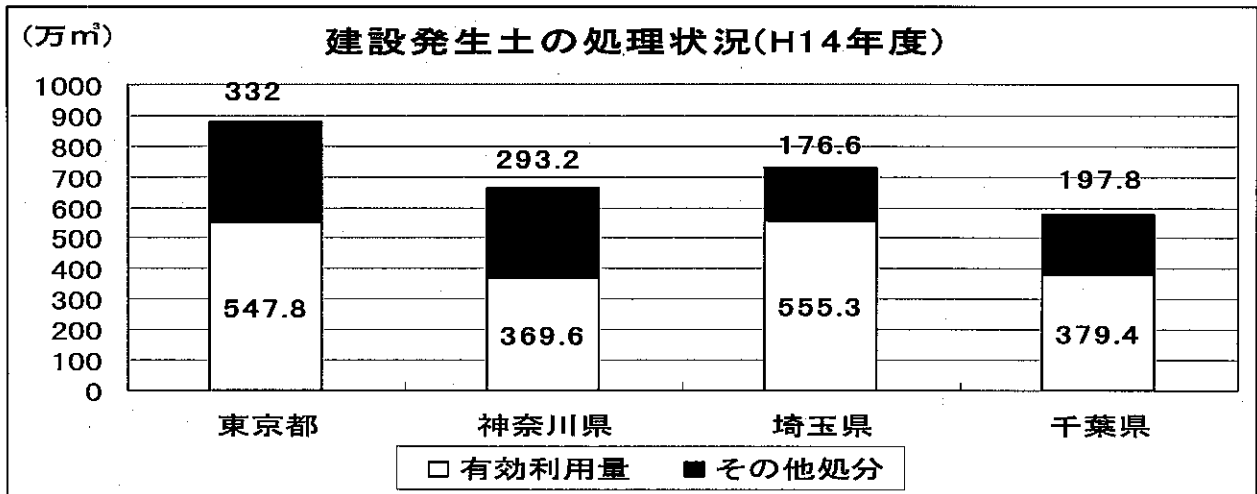
### 【具体的な問題点】

- ◆ 大量の残土による緑の減少・谷地・谷津田の自然環境・生態系の破壊・景観の悪化
- ◆ 運搬のダンプによる粉塵・振動・交通事故など住環境の悪化
- ◆ 有害な物質の混入による河川・地下水・土壌の汚染の懸念による住民の不安
- ◆ 一定の環境・設置の基準を満たせば、どこでも立地が可能
- ◆ 地元住民と事業者・行政のトラブル



### 【問題の発生要因】

- ◆ 首都圏の再開発・公共工事等により大量の残土が発生、リサイクルが十分でない。
- ◆ 他県の残土処分場が不足。
- ◆ 排出地域から近く、交通条件も良く運搬が容易（海運による大量の移動）
- ◆ 地形的に投棄しやすい谷津田や谷地の存在。
- ◆ 管理できなくなった森林や農地の存在。
- ◆ 有害な物質の混入・許可量を超えた不法な処理の例があり、住民に不安感がある。
- ◆ 処分場の立地について緩い規制、一定の周辺環境・設置の基準を満たせば、どこでも立地が可能。



#### 《問題解決に向けた課題》

- ◆ 残土の減量化・リサイクルの推進、残土を使った公共事業の推進
- ◆ 排出事業者・残土処理業者・地権者の意識改革と責任の明確化
- ◆ 処分場の温床となる荒廃した森林や農地・谷津田等の管理の強化
- ◆ 不適正な処理に対する監視・取締り・罰則の強化
- ◆ 処分場に対する立地の規制と誘導
- ◆ 住民への情報公開と意見を尊重するシステムづくり

#### 《問題解決に向けた取り組み事例》 (参考資料2)

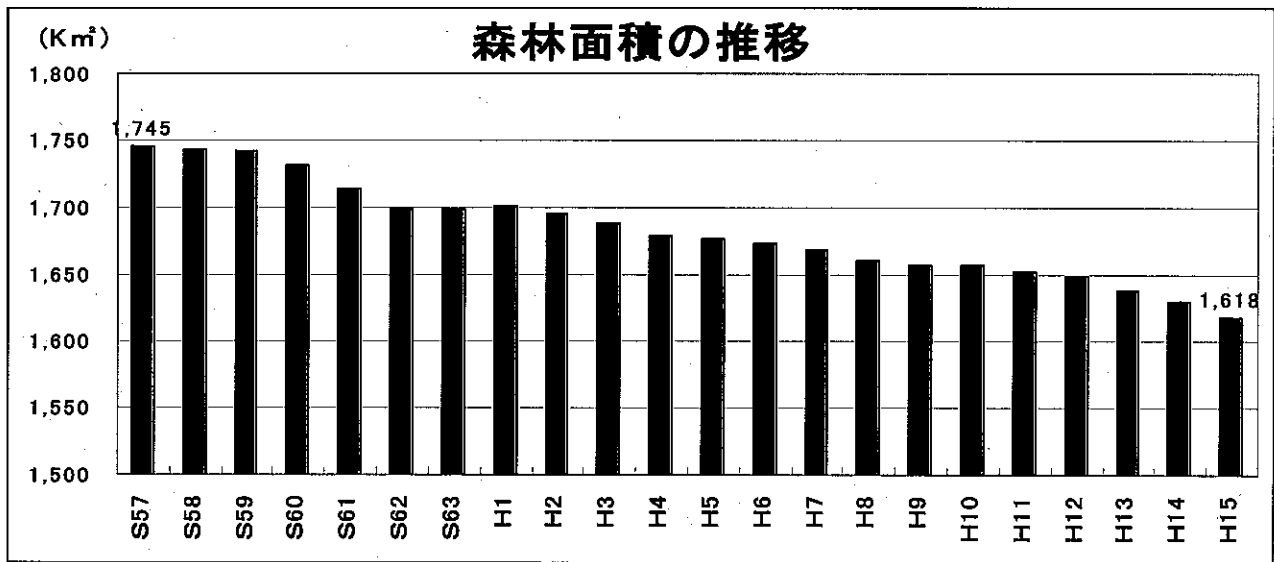
- ◆ 建設発生土情報交換システムを活用した再利用化 (国・都県・市町村)
- ◆ 埋め立て許可後の定期検査の強化 (検査頻度を高める) (千葉県)
- ◆ 地下水の水質保全を重点においた市町村の残土条例の制定 (山武町)  
 地元住民の協定により、町がその協定内容を残土事業の許可基準として追加、処分場の立地を規制できる。(地下水保全協定制度)
- ◆ 公的な機関による残土の安全な処理と有効活用 (鳥取県)  
 (財)鳥取県建設技術センターでは、災害や環境に配慮した残土処分場を設け、建設残土を受け入れ、その中で再利用のできる土砂はストックし再利用。また地元と協議しながら、交通安全対策や防災工事を実施。現在、工場敷地・圃場整備・広場造成などに役立っている。

## 2. 森林の問題

### 《開発に伴う森林の減少の問題》

#### 【具体的な問題点】

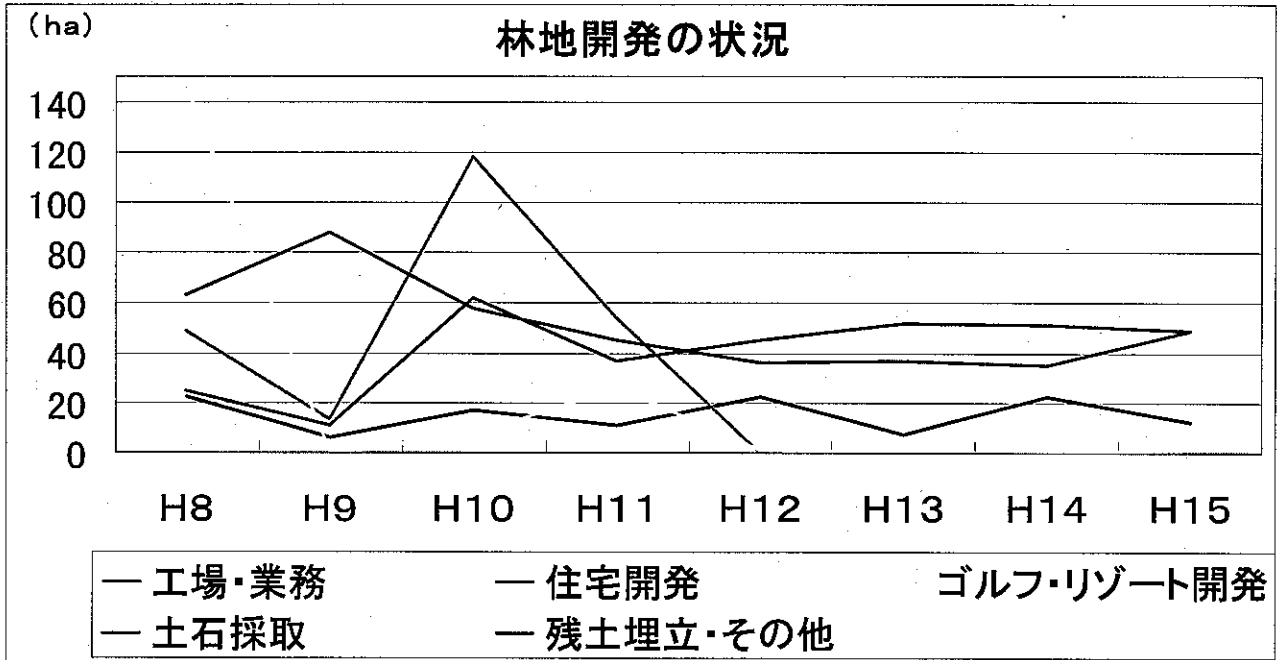
- ◆ 開発に伴う自然環境・生態系の破壊
- ◆ 森林景観の悪化、千葉県固有の景観の破壊
- ◆ 地球温暖化の助長
- ◆ 潤いや安らぎを与える身近な緑の減少





## 【問題の発生要因】

- ◆ 千葉県の都市・工業化に伴う住宅・工業団地開発。
- ◆ ゴルフ場・リゾートの開発。
- ◆ 首都圏の都市開発のために土砂需要が高い。
- ◆ 近年、産廃・残土の処理場としての需要が高い。



## 《問題解決に向けた課題》

- ◆ 林地開発に対する総量的な抑制
- ◆ 森林の保全や開発可能等の階層区分の明確化
- ◆ 林地開発の立地規制
- ◆ 県民の理解と森林・緑の再生活動の促進

## 《問題解決に向けた取り組み事例》 (参考資料3)

- ◆ 山砂採取に伴う林地開発許可の許可基準の見直し検討 (千葉県)
- ◆ 里山の保全・活用の促進・里山バンク制度の創設 (千葉県)
- ◆ 「京都府豊かな緑を守る条例(仮称)」の制定 (京都府)
  - ・ 森林の利用及び保全促進制度の創設  
知事は、森林の利用及び保全を重点的に図る区域を指定、森林利用保全計画を定める。また、森林の利用保全活動団体と重点区域の森林利用保全協定を認定する。
  - ・ 林地開発行為の協議制度・土砂搬入禁止区域指定制度の創設  
開発行為者の事前協議制度を創設と土砂搬入を禁止する区域を指定し行為を制限
- ◆ 足尾に緑を再生させる活動 (NPO 足尾に緑を育てる会)  
銅山の鉱毒により荒廃した山を、市民と行政が協力し再生させる活動

## 《土砂採取による環境・景観の問題》

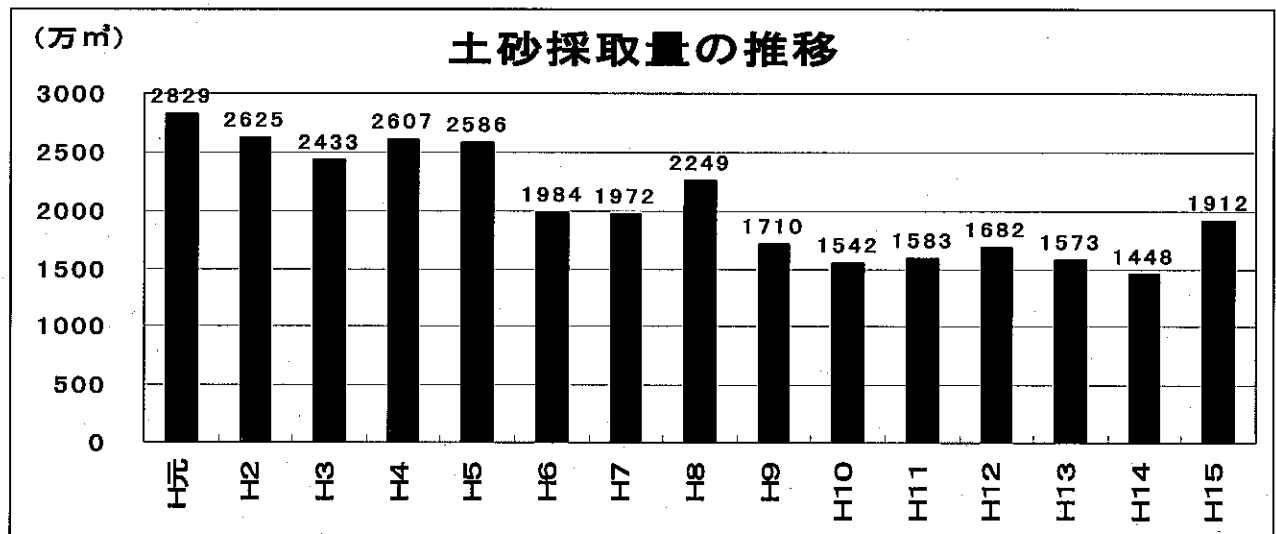
### 【具体的な問題点】

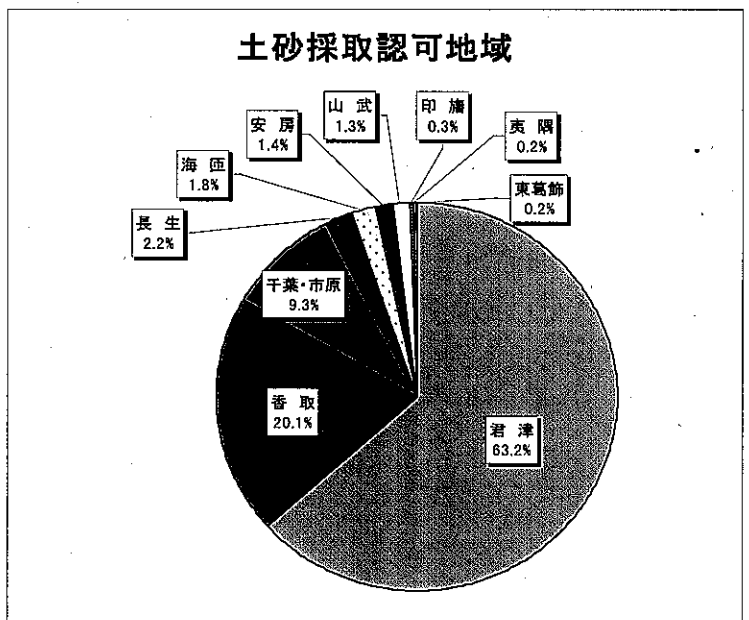
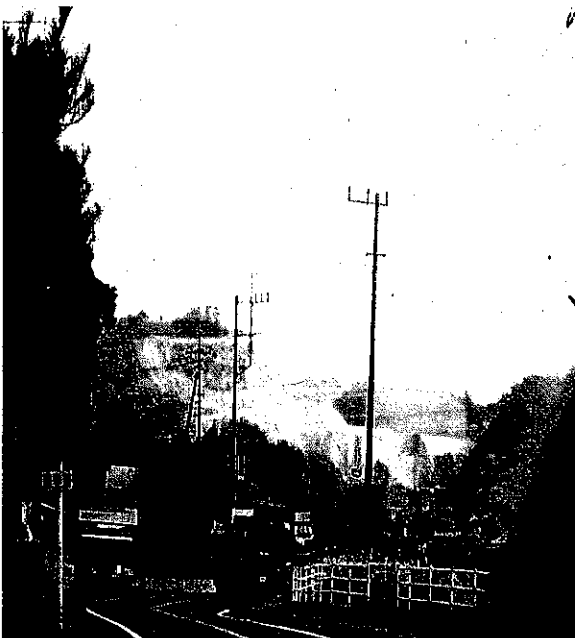
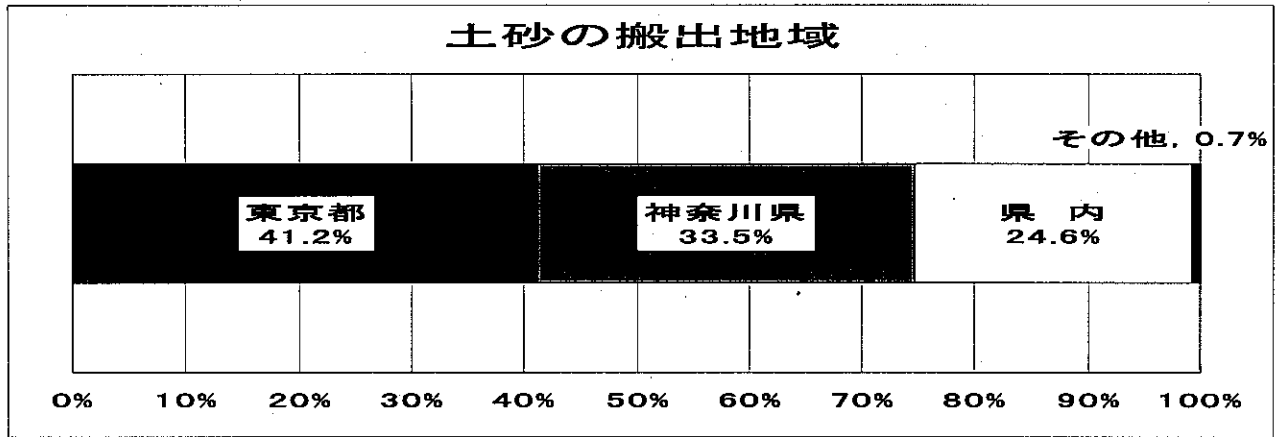
- ◆ 山林の伐採・山砂採取に伴う自然環境・生態系の破壊
- ◆ 排水・地下水脈の分断・粉塵・振動・交通安全など周辺の住環境の悪化
- ◆ 事業期間が長く山が削られた状態で放置されるため景観が悪化
- ◆ 土砂採取後、植栽してもうまく活着せず緑の回復が遅い
- ◆ 土砂採取跡地が産廃・残土処理場として活用されることへの住民の不安



### 【問題の発生要因】

- ◆ 良質な山砂が産出され、首都圏の埋立や都市開発の建設資材としての需要が高い。
- ◆ 管理が難しくなった森林・荒廃した森林の存在。
- ◆ 砂利採取法・森林法等の環境・災害防止の一定の基準を満たせば開発が可能。
- ◆ 林地開発許可制度において、緑の再生の確認まで義務付けられていない。
- ◆ 事業期間が長く山が削られた状態での放置。
- ◆ 掘削の法面が急であり、樹木の活着が難しく、緑の回復が遅い。
- ◆ 土砂採取後、産廃・残土処理場に転換する事例が多くなっている。





#### 《問題解決に向けた課題》

- ◆ 土砂採取に対する総量的な抑制
- ◆ 森林の保全や開発可能等の階層区分(採取して良い所・悪い所)の明確化
- ◆ 土砂採取の立地規制
- ◆ 建設事業者の残土の再利用の促進
- ◆ 長期化する土砂採に対する事業規制
- ◆ 採取後の緑の再生の義務化
- ◆ 県民・地権者・事業者に対する森林保全の啓発
- ◆ 緑の再生活動の促進

#### 《問題解決に向けた取り組み事例》

- ◆ 山砂採取に伴う林地開発の許可基準の見直し検討 (千葉県)
- ◆ 土砂採取法面の1次緑化の指導 (林野庁営林事務所)
- ◆ 里山の保全・活用の促進・里山バンク制度の創設 (千葉県)

## 《森林の荒廃の問題》

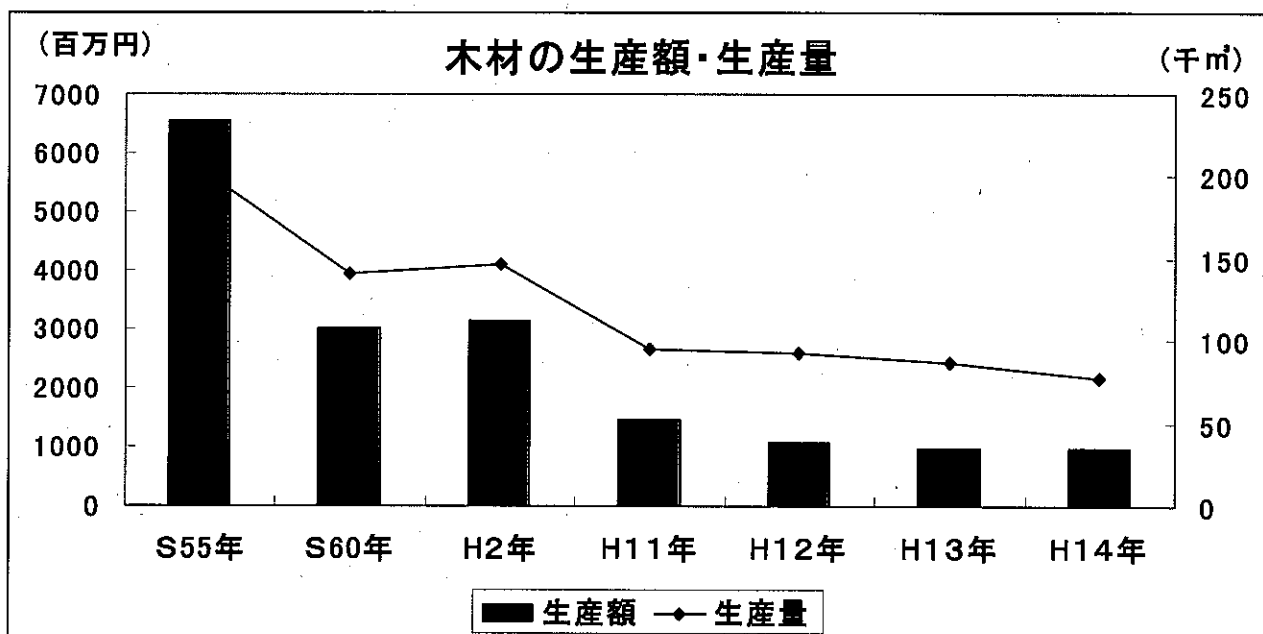
### 【具体的な問題点】

- ◆ 人手が入らず荒廃した森林の増加
- ◆ がけ崩れ・崩落の危険性の増加、治山・治水能力の低下
- ◆ 病虫害等の発生のおそれ
- ◆ ゴミ・産廃・残土の不法投棄、開発等の温床
- ◆ 景観の悪化



### 【問題の発生要因】

- ◆ 林業就業者・後継者の減少（H12年度 県内の林家人口 499人）
- ◆ 林業就業者の高齢化
- ◆ 不在森林所有者の増加
- ◆ 木材価格・生産量の低迷



## 《問題解決に向けた課題》

- ◆ 新たな林業労働力の確保・後継者の育成
- ◆ 山村と都市との交流
- ◆ 住民のボランティア・企業メセナ活動等による森林の再生
- ◆ 環境保全・温暖化の防止対策としての森林保全についての啓発
- ◆ 針葉樹から広葉樹への転換（人手のかからない森づくり）

## 《問題解決に向けた取り組み事例》（参考資料4）

- ◆ 森林組合等の林業事業体への長期施業委託の推進（千葉県）
- ◆ 里山の保全・活用の促進・里山バンク制度の創設（千葉県）
- ◆ みどりのボランティア（千葉県）
- ◆ 緑の少年団活動（千葉県）
- ◆ 「みどりの雇用」制度による後継者の育成（和歌山県）

就業者の減少・高齢化、後継者不足による森林の荒廃、地域の人口減少を防ぐため県外から林業従事者を雇用。森林の保全と地域の活性化を狙った施策。

- ◆ 全国植樹祭の実施（千葉県）

豊かな自然や安全で快適な生活空間を守るために、多様な森づくりや里山の保全などに積極的に取り組むとともに、人と自然との共生を図り、県民参画により人類共有のかけがえのないみどりを次代に確実に引き継ぐことを目標とし、次の内容により具体的展開を図る。

- (1)豊かな自然環境と快適な生活空間の確保
- (2)資源循環型社会の森林づくり
- (3)情報化社会・参画社会のみどりづくり

